



「心のパズル」について

小学校第1学年及び第2学年(19)	
A 主として自分自身に関すること	
善悪の判断、 自律、自由と責任	(1) よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。
正直、誠実	(2) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。
節度、節制	(3) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。
個性の伸長	(4) 自分の特徴に気付くこと。
希望と勇氣、 努力と強い意志	(5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うこと。
真理の探究	

帯西レンジャーの「4つの心」は、小学校の道徳で学ぶ4つの視点からきていることは、お知らせしてきました。道徳科の4つの視点にはさらに、視点ごとの内容項目というものがあります。内容項目とは、道徳的価値を含む内容を短い文章で表したものです(左図文科省HPより)。

しかし、これでも難しい(-_-;)。教頭時代のある日、校長先生が「内容項目をぱっと把握できて、見やすいものにできませんかねえ。」と呟かれました。その言葉がずっと耳に引っかかっていて、ある日教室を巡回していたら子供から「教頭先生見て見て〜。」と呼ばれ、ジクソーパズルを得意気に完成させた場面に遭遇しました。「これだ!!」と閃き、パソコンのイラストソフトと向き合うこと一週間以上…ついに校長先生の宿題であった「心のパズル」を完成することができました。



ことができました。

上の「心のパズル」は、低学年用ですが、帯山西小では帯西レンジャーの「4つの心」を活かしつつ、内容項目をパズルのピースに置き換えて示しています。「心のパズル」は、4つの視点をA⇒B⇒C⇒Dの順に同心円状で表し、小学校低・中・高学年から、中学校まであります。例えば「帯西レッド」の文科省が示す「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」の内容項目を表すピースは、小学校低学年では「よいことわるいこと」、中学年では「正しいことを自信をもって」、高学年では「しっかり考えて責任ある行動を」、中学校では、「自ら判断・行動し結果に責任をもつ」とし、子供たちが口ずさみやすいように表記しています。

「心のパズル」は、子供たちが、学びや体験を通して、どんな心を獲得したのか、またはどんな心や行動の変容があったのかを自ら実感することができるツールとなります。例えば、行事に取り組ませるときに、子供の思いを大事にして、心を掘り起こして、「どの心が必要か、どの心が伸びたのか」と問いを繰り返していくことで、子供たちにとって、行事は全て大切な学びの場となるのです。

さらには、学校生活だけではなく、「心のパズル」を共通の「ものさし」として活用し、家庭と連携することで、家庭の中も学校と同じ道徳性を育む場となると考えています。

まだ各教室等に掲示したばかりですので、これからじわじわと子供たちの呟きや行動の中に、帯西レンジャーが登場してくると思います。そうすると、子供たちが帯西レンジャーと共に活躍する学校となり、「わくわく」が溢れる学校となっていくと思います。